

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいにしょう
じっせん
第二章 実践

みずか
せいちよう
自らの成長

くろがね

や

甚

鍛

鉄を熱くにいとうきたわざれば、きず隠れてみえず。

たびたび 責

現

あさ

み

搾

度々せむれば、きずあらわる。麻の子をしぼるに、つよく

責

あぶらすく

せめざれば、油少なきがごとし。

かいもくしよう

(005 開目抄

みずか

せいちよう

自らの成長 115 ページ 8 行)

おのおのずいぶん ほけきよう しん

各々随分に法華經を信ぜられつるゆえに、過去の重罪

責 出 たま そうつろう

をせめいだし給いて候。たとえば、鉄をよくよくきた

傷 現 くらがね 鍛

えばきずのあらわるるがごとし。石はやけばはいとなる。

こがね しんきん

金はやけば真金となる。

たび 真 ごしんよう

この度こそまことの御信用はあらわれて、法華經の

じゅうらせつ しゅご たも そうつろう

十羅刹も守護せさせ給うべきにて候らめ。

きようだいしろう

(171 兄弟抄

みずか せいちよう

自らの成長1474ページー1行)

ほけきよう しん かこ

あなたがたは、しっかりと法華經を信じてこられたために、過去の

じゅうざい げんせ せ だ

くろがね

重罪を現世に責め出されているのです。それは、たとえば鉄をよ

きた う ないぶ きず ひょうめん

くよく鍛え打てば内部の疵が表面にあらわれてくるようなもので

いし や はい

こがね や しんきん じゆんすい きん

す。石は焼けば灰となりますが、金は焼けば真金（純粋な金）

なん ほんとう しんじん

ほけきよう

となります。このたびの難こそ、本当の信心があらわれて法華経に

で じゅうらせつによ

まも

出てくる十羅刹女もあなたがたをかならず守るにちがいありませ

ん。

鍛鍛 金金 盛盛 ひひ いい 疾疾 溶溶 そうろう

きたわぬかねは、さかんなる火に入るればとくとけ候。

こおりこおり 湯湯 いい つるぎつるぎ たいかたいか いい

氷をゆに入るるがごとし。 剣なんどは、大火に入るれど

溶溶 鍛鍛 ゆえゆえ

も、しばらくはとけず。これきたえる故なり。

209 四条金吾殿御返事（世雄御書）

しじょうきんごどのごへんじ せおうごしよ

みずか せいちよう

自らの成長 1590 ページ 8 行

されば、能く能く心よよをきたわせ給うたもにや。鍛

215 四条金吾殿御返事しじようきんごどのごへんじ（石虎將軍御書せつこしょうぐんごしよ）

みずか
自らの成長せいちよう
1608 ページ 15 行

いまおもい出でたることあり。子を思ふ故にや、おや、

槻き きのき 弓ゆみをもつて学文せざりし子におしえたり。しか

づきの木の弓をもつて学文せざりし子におしえたり。しか

ちち 憎

槻

るあいだ、この子、うたてかりしは父、にくかりしはつき

き ゆみ

つい

しゅがくぞうしん

じしんとくだつ

極

の木の弓。されども、終には修学増進して自身得脱をきわ

ひと

りやく

み

た かけ

み

槻

め、また人を利益する身となり、立ち還つて見れば、つき

き

われ

打

ゆえ

こ

卒塔婆

き

の木をもつて我をうちし故なり。この子、そとばにこの木

造

ちち

くよう

立

み

をつくり、父の供養のためにたててむけりと見えたり。

うえのどのごへんじ

とうじょうなん

こと

324 上野殿御返事（刀杖難の事）

みずか

せいちよう

おも　だ

むかし　こ

おも

おや

いま思い出したことがあります。昔、子どもを思うために、親が

つぎ　き　ゆみ　う　かくもん

こ　おし

榎の木で打って学問をしない子どもに教えたということがあり

こ

ちち

にく

つぎ　き

ます。そのため、この子は、ひどいのは父であり、憎いのは榎の木の

ゆみ　おも

しゅうがく　すす

じぶんじしん　さと

弓だと思いました。けれども、やがて修学が進んで自分自身も悟

ひと

おし

み

りをえることができ、人にも教えるような身になりました。ふりか

おや　つぎ　き　ゆみ　じぶん　う

えってみれば、これは親が榎の木の弓で自分を打ってくれたためだつ

こ　な　ちち　つぎ　き　そとば

たのです。そこで、この子は、亡き父のために榎の木で卒塔婆をつく

くよう

た

はなし

り、供養のために立てた、という話がありました。

とり たまご はじ みず
鳥の卵は始めは水なり。その水の中より、誰かなすとも
くちばし め かざ い き こくう 翔
なけれども、 觜 よ目よと厳り出で来て、 虚空にかけるが
ごとし。

（ 400 新池御書 にいけごしよ）

みずか せいちよう
自らの成長
2068 ページ 4 行